

## 第5回 これからの学術情報システム構築検討委員会議事次第

日時：平成25年7月9日(火) : 13:30-15:30

場所：学術総合センター 20階講義室1

出席者：配付資料参照

### 議事

1. 前回議事要旨(案)確認 (資料1)
2. 今後の進め方 (資料2)
3. データのオープン化について
4. 目録システムについて (参考資料1)
5. その他 (資料3)

### 配付資料

#### 委員名簿

1. 第4回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨(案)
  2. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理【まとめ】
  3. 平成25年度のERDB(電子リソース管理データベース)プロトタイプ構築プロジェクトについて
- 追加 第5回連携・協力推進会議議事要旨(案)

#### 参考資料

- 1-1. これからの学術情報システム構築検討委員会目録システムグループ・課題整理  
(第3回配布資料再掲)
- 1-2. 目録検討事項
- 1-3. 目録システムの検討方針(案)

これからの学術情報システム構築検討委員会委員名簿

氏名	所属・役職	備考
佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授	委員長
栃谷 泰文	京都大学附属図書館 事務部長	
加藤 さつき	東京外国語大学 学術情報課 サービス係長	
飯塚 亜子	東京大学 工学系・情報理工学系等 情報図書館 情報資料チーム 係長	記録
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査	
関 秀行	慶應義塾大学メディアセンター本部 課長	
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務副部長兼総務課長	
菊池 亮一	明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務長	
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授	(欠席)
小山 憲司	日本大学 文理学部 准教授	
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長・図書室長	
相原 雪乃	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長	
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課副課長	

平成 24 年度 第 4 回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨 (案)

1. 日時：平成 24 年 1 月 28 日 (月) 15:00～17:00
2. 場所：国立情報学研究所 20 階 実習室 1
3. 出席者：

(委員)

佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授 (委員長)
栃谷 泰文	京都大学附属図書館 事務部長
加藤 さつき	東京外国語大学 学術情報課 資料サービス係長
久保田 壮活	東京大学附属図書館 総務課 主査
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査
関 秀行	慶應義塾大学メディアセンター本部 課長
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務副部長兼総務課長
菊池 亮一	明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務長
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授/学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長
鈴木 秀樹	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 専門員

(アドバイザー)

呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系准教授
小山 憲司	日本大学 文理学部 准教授

(陪席)

関川 雅彦	筑波大学附属図書館 副館長
中元 誠	早稲田大学図書館 事務部長
尾城 孝一	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長
森 いづみ	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

<配布資料>

委員名簿

1. 平成 24 年度 第 3 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨(案)
2. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理【まとめ】
3. 「総合的発見環境」
- 4-1. ERDB (電子リソース管理データベース) プロトタイプ構築プロジェクトの概要について
- 4-2. ERDB 概念モデルと想定される役割 (案)
- 4-3. ERDB/3 階層構造のデータ登録例
- 5-1. NACSIS-CAT のデータ公開について
- 5-2. オープン書誌データの原則

#### 4. 議事：

議事に先立ち、アドバイザーとして筑波大学の呑海先生と日本大学の小山先生が出席される旨、委員長より紹介があった。

##### (1) 前回議事要旨（案）確認

佐藤委員長より、資料 1 に基づき前回議事要旨（案）について確認があり、原案どおり承認された。

##### (2) 課題のとりまとめ

資料 2 に基づき、各グループでの課題整理、実施年度の設定、WG 設置に関する検討結果について確認を行った。

##### ① 全体について

大向委員より、資料 2 事項 3-1「総合的発見環境」について、資料 3 に基づき CiNii における対応可能性の報告があり、意見交換を行った。

##### 【報告】

- ・原則の確認になるが、「発見とアクセスの保証」を行うことが重要である。
- ・個別に努力している機関もあるが、NII としては全体としてボトムラインをいかに引き上げていくか、を考える必要がある。NII として提供できるものを整理し、足りないものを図書館間連携で埋めていくことが必要。
- ・発見レイヤーについては、現状、すべてのデータが揃っているわけではない。例えば、国内のオープンアクセス書誌情報は、データ整備したい対象である。
- ・アクセスレイヤーについては、ERDB の契約情報と CiNii で実装している認証機能を利用すれば、技術的にはアクセス権を持つ利用者にナビゲーションまで提供できる。CiNii Books（紙雑誌）と ERDB（電子）の連携は、今年度中にデモを提供できる予定。
- ・記事単位では、CiNii Article と海外記事、ERDB の連携でのアクセス支援を検討中。API 等でデータを収集し、検索とアクセス可能かどうかの情報を提供できるだろう。
- ・いずれにしても、媒体を意識せずにナビゲーションできる仕組みを作っておいて（実際にデータを得られるかはトライ＆エラーをしながらになるだろうが）、少なくとも、ボトムラインとして多くの利用者が使える情報インフラを構築することが可能だろうと考えている。

##### 【質疑応答・意見交換】

- ・発見レイヤーのデータは、認証を通らなくても誰でも見られる、と考えて良いのか？  
→目録データであるので問題ないと思うが、提供元によって提供範囲の制限や認証が必要になるかもしれない。例えば、契約機関とそれ以外の利用者では見えるデータに差がある、ということもありえる。
- ・各機関でリンクリゾルバやディスカバリーサービス等でカバーしているものを代替し、各機関の努力の重複が避けられたり費用を抑えられるようになるのではないか。  
→100%代替できるものではないし、NII がすべての書誌を集めることはできない。また、

機関毎に求めるレベルも異なっているが、土台として共通するものは活用したい。

## ② デジタイズについて

久保田委員より、「デジタイズ」について資料 2 に関連して「当面求められる作業」として検討した内容の報告があり、意見交換を行った。

### 【報告】

#### 1. Shared Print の実現可能性について

- ・文科省の「学術情報基盤作業部会」における議論では、国立大学の施設整備で集密書架の要求が増えていること、また、アクティブラーニングのスペース確保のために、Shared Print を実現することで解決できるのでは？という文脈で言及されているのではないかと？
- ・「学術情報基盤作業部会」でも課題とされているとおり、先行事例ではデジタイズと Shared Print はセットで進められているようである。我が国でも同様にセットで進めていく必要がある。ただし、デジタイズのための権利処理が課題であり、そのための方策を検討する必要がある。また、Shared Print の設備整備と並行して進めていく必要がある。
- ・なお、資料タイプとしては、書籍よりも雑誌のほうが Shared Print の効果が高いだろうと考えられる。

#### 2. デジタル化の現状と把握、デジタル化を優先すべき資料の検討

- ・今後必要な調査として、来年度設置予定の WG で検討いただきたい。
- ・ただし、権利処理の課題が解決できないと優先順位を決めることが難しく、当面は著作権に抵触しない資料から進めていくのが現実的だと思われる。具体的な対象資料の調査は WG で調査を行う。なお、日本特有な資料をデジタル化・発信することで、海外における日本研究に役立てることができると考えられる。
- ・国立国会図書館との連携も必要である。また、国立国会図書館では著作権処理を行っているので、これを DB 化し活用することで、大学図書館でのデジタル化を促進することもできるのではないかと？

### 【質疑応答・意見交換】

- ・非常にハードルの大きな課題であり、「学術情報基盤作業部会」の論点ペーパー（問題意識の 3 番）を視野にいれて議論せざるを得ないとしても、本委員会でもどのように扱うかを整理する必要があるのではないかと？
- ・海外の事例としては、Hathi Trust 代表は、Shared Print とは全て一緒になっているわけではなく独立した活動であると発言している。
- ・Print を Share できればよいのであれば、必ずしもデジタル化は必須ではないと考えることもできる。
- ・現実の心配として、各機関で個々に雑誌の廃棄が進めば、国内でのアクセスがなくなることも起こりうる。その対応策としてのデジタイズはあり得るのではないかと？
- ・実務的な課題として考えれば、例えば、目録データに著作権情報を入れておくことが重要である。こういった環境整備も課題の一つだろう。

- ・いずれにしろ、委員会としては、デジタルズの課題と問題点を洗い出しておく必要がある。また、現状デジタル化がどうなっているかは調べておく必要がある。

政策的な面では「学術情報基盤作業部会」の動きを見ていく必要があるが、本委員会の作業としては、デジタル化の現状と今後の見通しについての調査を行うこととなった。

- ・資料2 事項1のWG設置について、メンバーの具体案があればお願いしたい。  
→資料の記載以上の具体案は詰められなかったが、所属機関で関連する業務に携わっている方が望ましいと考えている。

### ③ 目録システムについて

加藤委員より、「目録システム」について資料2に基づき報告があり、意見交換を行った。

#### 【報告】

- ・事項3「「これからの日本の学術情報基盤」にかかる中長期の課題」の補足として、海外への日本語資料情報の提供を今後の展開に含めるか否かの議論も入るものと捉えている。
- ・実施時期に関し、事項1については、1-5の以外は大きな課題で参加機関も含め影響範囲も広いと、現実的な検討期間として3~4年を想定した。
- ・WG設定については、事項1-2、1-3は、本委員会委員の参加を前提に記載している。外部委員については、過去の関連委員会や報告書に携わったメンバーが、前提条件を共有しているという点で望ましい、と考えている。
- ・事項1-2の理念の再考については、結論が難しいかもしれないとの意見もあった。
- ・事項1-4は、基本的にはNII側で進められるものと想定されるので、まずはNIIで検討することとし、その後広く議論が必要であればWGを設置する方向とする。

#### 【質疑応答・意見交換】

- ・課題が相互に絡むものがある。また、システム面の今後の開発や運用を固めないと、いきなりWGにふっても結論は難しいと思われる。ある程度はこの委員会で議論しないといけないだろう。
- ・事項1-4のシステム再編のスリム化は、すでにNIIで進められているのですか？  
→ハード面では、2013年4月のシステム移行に合わせて進めている。次にステップ2としてソフトの変更が必要。その後、ステップ3として実務に影響のある仕組みの変更ができるようになる道筋。なお、ステップ2の時点ではサービス側から目立った変化はなく、その先のステップ3がNIIを越える話なので、議論が必要になる。
- ・仕組みをどうするが事項1-2の理念の再考に係る部分であるが、従来はデータ作成側の視点で議論されており、WGでは例えばインセンティブモデルの検討が想像されるが、過去のWG等での議論の内容から先にすすむことは難しいのではないかと。逆に利用の面からカタログや検索に必要なものは何か、という視点で見る必要もあるのではないかと。  
→今まで利用面からの分析を行っていない。CiNii Booksのlogを分析することは可能。分析したデータをもとにして議論することも考えてよいのではないかと。

→内部（業務者）ではなく、外部（ユーザ）の視点は必要だと思う。

- ・ **Linked Data** や **RDA**、**FRBR** 対応は、どのように動くか見えていないところがある。国立国会図書館は対応を表明しているが、いつの時点でどうなるかはっきりしていないので、状況をみながらスケジュール調整しつつ進めていかざるを得ない部分がある。
- ・ 理想的には **NACSIS-CAT** は資源共有という考え方であるが、今や図書館だけでは成り立たない。また、**OCLC** や **Europeana** などとのグローバルな共有関係の議論も必要。そういう部分の議論を本委員会で行い、必要に応じ **WG** を作ればよいのではないか。
- ・ 現在のシステムは大きなデータでも扱いに困難のない状況になっているので、細かい入力規則を決めなくても、インデックスを整えればソフト的に解決できる可能性が高い。データの扱い方を決めれば、議論に時間をかけなくてもすむのではないか。
- ・ 古典籍については、事項 3（海外からの利用）とも関連して、目録需要はかなりあるように思われる。どのように扱っていくか整理が必要である。

#### ④ ERDB について

高橋委員より、「ERDB」について資料 2 および 4 に基づき報告があった。

##### 【報告】

- ・ 資料 2 については、**ERBR** の各事項に対し実施年度を埋める作業を行った。
- ・ 事項 2-2 のロードマップは今年度中に暫定版を作成し、以後随時改訂する予定。  
(資料 4-1 の項番 6 を参照)
- ・ 検討組織については、**ERDB** プロトタイプ構築プロジェクトがあり、直接的には本委員会との上下関係はないが、随時、**NII** から委員会に報告等を行う前提で、対応組織は **NII** と記載している。
- ・ ただし、方向性の検討や承認について、事項 2-3、事項 3-2-3 のように **NII** 単独では対応できない課題については、本委員会や連携・協力推進会議と協力関係を持ちつつ、進めていきたい。
- ・ 前回委員会での、「プロジェクトの狙い、**NII**・大学・**JUSTICE** と **ERDB** の関係性、を整理した図がほしい」との宿題に対し、プロジェクトで議論し、資料 4 を作成した  
→資料 4-1 に基づき説明があり、目的、共有すべきデータ、実現する機能、推進体制等について確認した。  
なお、資料 4-1 の項番 4①については、資料 4-3 を参照しつつ **ERDB** の 3 階層のデータ構造について説明があった。また、**NII**・大学・**JUSTICE** の役割については、資料 4-2 に基づき説明があった。

#### ⑤ WG の設定について

佐藤委員長より、「デジタルイズ」および「目録システム」に関する **WG** 設置については、平成 25 年度に入ってから委員長と事務局とで検討し、各委員に諮りつつ具体化していきたいとの提案があり了承された。

以上の審議内容について、2 月 1 日開催の連携・協力推進会議に、本委員会の進捗状況として報告する旨、佐藤委員長より説明があった。

### (3) メタデータ提供方針の策定について

佐藤委員長より、全体グループの事項 3-3 に関連して、「メタデータ提供方針の策定」について資料 5 に基づき提案があり、以下のとおり了承された。

- ・NACSIS-CAT のデータ公開について、資料 5-1 に基づき、権利主体を NII とすること、また、ライセンスについては独自の条項を盛り込まずに既存のライセンス (CC-BY または ODC-BY) を使用することを提案したい。
  - ・本委員会での審議結果を、2 月 1 日開催の連携・協力推進会議に諮りたい。
- 連携・協力推進会議には、方向性だけでなく具体的な公開方法 (ライセンス種別) まで説明するのか？
- データ公開を検討するという方向性について了承を求め、公開方法についてはさらに詳細に検討して報告する、という形で諮ることにする。
- ・現状、NACSIS-CAT には、データ公開に関する取り決めはないのか？
- 参加館が自館の図書館サービスに利用すること以外の記載はない。今回は、Webcat の時のように単に検索させるだけでなく、データそのものの公開であるので、慎重な手続きが必要だろう。
- ・データ公開について反対する意見はあるか？
- 特になし。
- ・連携・協力推進会議に提出する資料の内容については、委員長に一任する。

### (4) 今後のスケジュール

本委員会の委員任期は、2012 年 8 月より 2013 年 7 月までとなっている。

アドバイザーの呑海先生、小山先生には、4 月から正式に参加いただく予定である。

なお、今回は 6 月開催を予定。

以上



「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理【まとめ】

最終更新日: 2013年1月24日

資料 2

※各委員の記載をグルーピングして「種別」「事項」として整理し、「方向性の検討/承認の場(案)」「想定される実働組織(案)」を追加  
 ※「方向性の検討/承認の場(案)」での「本委員会(承認)」は、実働組織に調査・検討、材料集め等を依頼し、委員会では方針や事業の決定や承認を行う、という考え方で記載  
 ※最終の修正、コメント等は青字で記載

種別	事項	方向性の検討/承認の場(案)	想定される実働組織(案)	WG構成(案)	検討実施時期(案)	作業	担当者
全体	1 本委員会の任務と作業範囲の明確化(事業計画の作成がゴールなのか?)	本委員会(確認)	済み				
	2 ロードマップの作成	本委員会			H24	第4回に提出	佐藤
	3-1 【総合的発見環境】「総合的発見環境」の定義(対象範囲の明確化)	本委員会			H25		
	3-2 【電子的コレクション】大学図書館およびNII等の電子的コンテンツの整備と利用	本委員会			H25-28		
	3-3 【メタデータ】知的所有権の整理、提供方針の策定、LOD対応(書誌・所蔵データ、典拠データ)	本委員会	NII		H24-25		
	3-4 【協力体制】大学図書館とNIIの協力体制の確立	本委員会、連携協力推進会議			H24-25		
3-5 【協力体制】NDL等、国内外機関との協同関係の構築	本委員会	NII		H24-27			
ERDB	1-1 ERDBの目的、用途の明確化	NII	NII		H24	最終報告会ドキュメントを回覧	NII
	1-2 ERDBのニーズ調査 ※ERDBプロジェクト参加機関へのヒアリング調査はNII実施済み		済み				
	2-1 最も効果的な実現方法の検討	NII	NII		H25		
	2-2 ロードマップの作成	NII	NII		H24、暫定版作成。随時改訂しつつ進める。		
	2-3 持続可能性の確保/大学(およびJUSTICE)と協力した運営体制の確立	本委員会、連携協力推進会議			H25-26		
	3-1-1 ERDBの仕様の汎用性の確保 ※KBARTを意識して設計(GOKb, KB+との連携を確保)、ONIX/PLを視野	本委員会	済み				
	3-1-2 収録範囲の検討(および優先度づけ) ・有償資源(有償のEJ, Ebook) ※まずは、契約系を対象とする ・OpenAccess Journal ※範囲に入れてよい(やれるならやってみる、程度から) ・貴重書等の電子版等一定品質が有るもの(要検討)	本委員会	先回の議論でほぼ済み?		H24		
	3-2-1 電子と紙のメタデータの扱いの確立 ※書誌単位、書誌粒度、関係付け、その他	NII	NII		H25-26		
	3-2-2 KBの調査(どういうデータがどこから提供されるか、入手できるのか。そのカバレッジ。)	NII	NII		H24-25		
	3-2-3 大学からのデータ提供の成否	本委員会、連携協力推進会議	NII		H24-26		
3-3 電子情報資源の統計情報	NII	NII		H24-26			
目録システム	1-1 NACSIS-CAT/ILLの意思決定 一委員会の不在(課題の検討、決定プロセスの確立) ※目録システムの最も重要な案件	本委員会、連携協力推進会議	NII		H25-H27		
	1-2 NACSIS-CAT/ILLの理念の再考	本委員会	WG設置	5~7名(本委員会委員、外部委員、NIIから)	H25-H27		
	1-3 メタデータ・フォーマットの検討/RDAへの対応	本委員会	WG設置、NII	5~7名(本委員会委員、外部委員、NIIから)	H24-H27		
	1-4 NACSIS-CAT/ILLのシステムの再編	本委員会	WG設置	本委員会で検討後、必要に応じてWGを編成(5名以下)	H24-H27		
	1-5 目録にかかわる研修の再編 ※方向性についてのみ検討	本委員会			H24-H25		
	1-6 遡及入力事業の再編(遡及入力事業の継続有無) ※遡及入力事業の中止決定に伴い取り下げ		済み				
	2 貴重図書、特別コレクション等の電子版への対応 ※日本古典籍総合目録データベースや全国漢籍データベースとの協力	本委員会			H26-27		
	3 「これからの日本の学術情報基盤」にかかる中長期の課題 ※相互運用性の確保(システム基盤、CAT-Pプロトコル、書誌階層等)	本委員会			H25-27		
デジタル化	1 既存資料の電子化の意義と効果の検証 ※Shared Printの実現可能性含む	本委員会	WG設置	国立2~3、私立2、公立	H25		
	2 和書、和雑誌の電子化	本委員会			H26		
	3 デジタル情報に対する永続的アクセス、長期保存 ※CLOCKSS、JAIRO Cloudの可能性、NDLとの協力も必要	本委員会			H26		



# ERDBプロジェクト進捗報告

---

2013.07.09

これからの学術情報システム構築検討委員会  
国立情報学研究所 学術コンテンツ課

# プロジェクト実施体制

- 国立情報学研究所
  - 開発, サーバ管理, 課題整理, 連絡調整
- JUSTICE
  - コンソーシアムデータの収集, 統計データの分析
- 参加図書館
  - データの提供, システムの利用・検証
    - 東北大学, 東京大学, 電気通信大学, 一橋大学, 横浜国立大学, 京都大学, 九州大学, 大阪市立大学, 学習院大学, 慶應義塾大学, 明治大学, (NII図書室 H25～学術コンテンツ課に組織再編)
    - 筑波大学、静岡大学、名古屋大学、大阪大学、島根大学、佛教大学 (H25～新規参加)
  - 各タスクにわけて, チーム編成して検討

# 平成24年度プロトタイプ構築プロジェクトの活動まとめ

- **準備期 4～6月**
  - 各参加機関からの契約情報データ収集
  - 5月31日 キックオフミーティング
- **開発と検証期 6月～9月**
  - プロトタイプ第1版提供→参加機関による検証
  - 9月27日 中間報告会
- **再編期 10～12月**
  - 第1版の評価に基づき、タスクチーム毎に個別検討を実施
    - ①全体シナリオ検討チーム②共通スキーマ検討チーム
    - ③共通業務フロー検討チーム④海外KB動向調査チーム
    - ⑤統計機能仕様検討チーム
  - 統計ツール(360Counter & SwetsWise)トライアル
- **まとめ期 11月～12月**
  - 12月21日 最終報告会

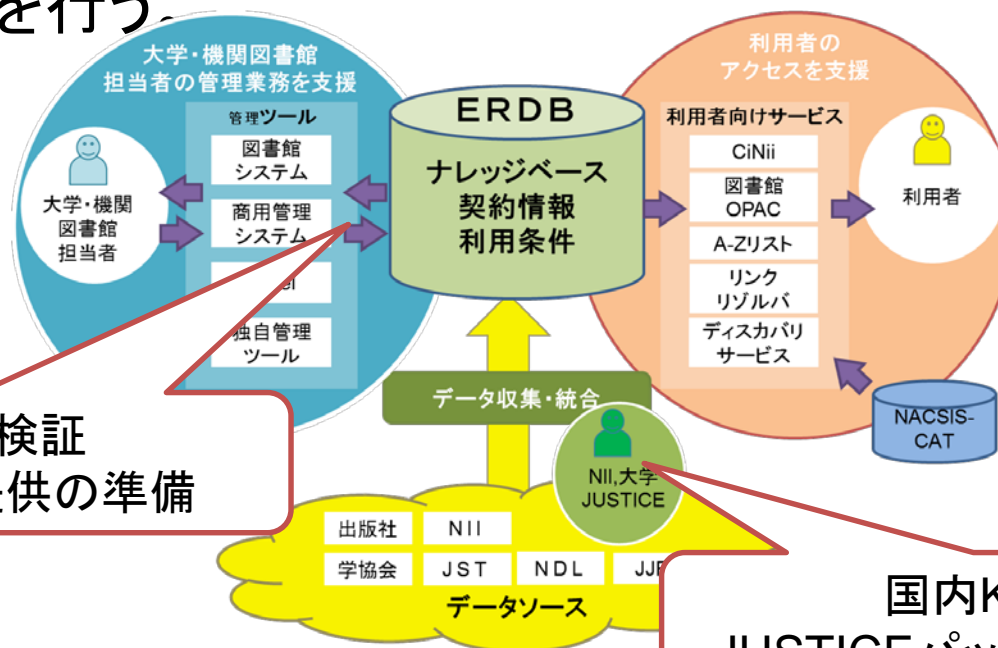
大学図書館とNIIの連携のもとに  
何をすべきかが明確に

# 今後のアクションプラン

	フェーズ1 ～2013-03	フェーズ2 2013-04～ 2013-09	フェーズ3 2013-10～ 2013-12	フェーズ4 2014-1～ 2014-03	フェーズ5 2014-04～ 2014-09	フェーズ6 2014-10～ 2015-03	フェーズ7 2015-4～
目標	国内の電子ジャーナルのナレッジベースを整備する	国内の電子ジャーナルのナレッジベースについて体制を含めて目処を付ける	各大学の契約情報の集約を行う	ERDBの基本機能作成は終了 JUTICEリソースの共有	運用開始の準備を行う	試行運用を開始する	運用開始する
NII	テンプレート開発 国内KBテスト データ登録	カスタム開発	管理機能開発 仕様の公開	本格開発	本格開発	試験公開	運用開始
大学		テンプレートの検証 メンテナンス体制 整備検討	カスタムの検証 各大学の契約情報のテストデータ 登録	フローの確立 データデータ整備 の検討	運用準備	試行運用を開始する	運用開始する
JUSTICE		KBARTの出版者 提供のとりまとめ	JUSTICE提案 データの投入	JUSTICE提案 データの投入			

# 平成25年度の主なターゲット

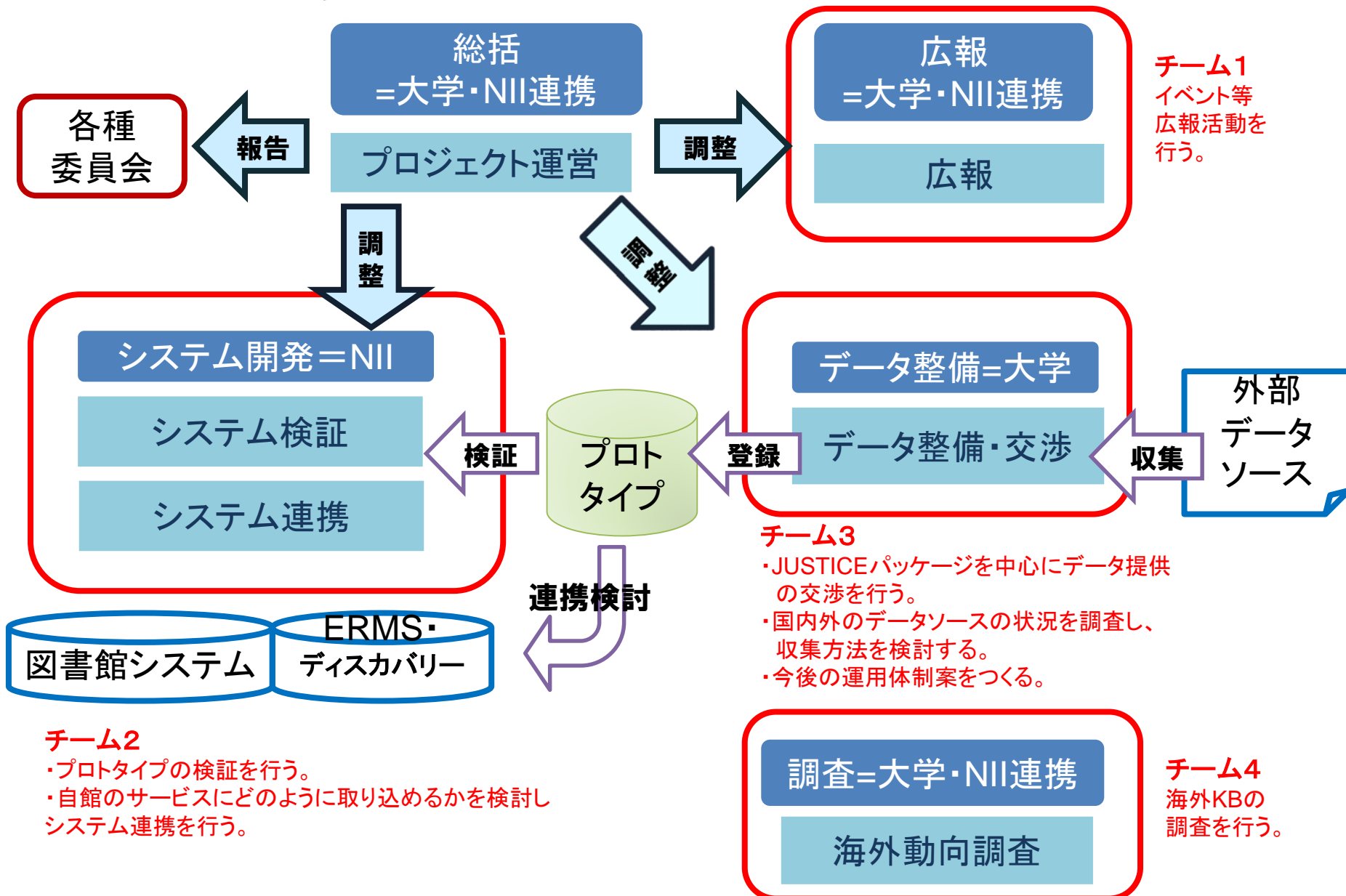
- 平成25年度のターゲット
  - 国内のナレッジベースの整備とJUSTICEのパッケージのデータ収集を行う。
  - APIを開発・検証するとともに、外部システムへのデータ提供の準備を行う。



APIの開発・検証  
外部へのデータ提供の準備

国内KBの整備  
JUSTICEパッケージデータ収集

# 平成25年度のプロジェクトチーム編成





# チーム編成

- 総括
  - NII(吉田, 木下, 大向, 高橋)・九州・横国・
- チーム1(広報)
  - 明治・東北・学習院・大阪・NII
- チーム2(システム検証)
  - 九州・慶應・大阪市・京都・静岡・名古屋・島根・佛教・NII
- チーム3(データ整備)
  - 横国・東京・一橋・筑波・JUSTICE事務局・NII
- チーム4(海外動向調査)
  - 筑波・京都・大阪・JUSTICE事務局・NII
- システム開発
  - NII
- アドバイザー
  - 電通, 伊藤氏(NII客員・実践女子)

# 直近の予定

- スタートアップミーティング
  - 2013年6月19日、20日（於NII）、26日（於佛教大学）
  - 今年度の新規メンバー対象に概要説明
- 全体ミーティング
  - 2013年7月19日（テレビ会議での参加も可）
  - 全体でのキックオフミーティング
- チームごとのミーティング
  - 基本的にテレビ会議
- 図書館総合展
  - 10月現在日程調整中
- 年度内各チームのまとめ
  - 1月頃にまとめ、各委員会に報告できるようにする。

2012/10/31 最終更新

これからの学術情報システム構築検討委員会  
目録システムグループ・課題整理

目録システムについては、事項間の関連性を踏まえて、大枠として以下のとおり仕分けを行いました。事項番号は、課題整理一覧の目録システム内での並び順です。

1. NACSIS-CAT/ILL の諸課題
  - 1-1. 意志決定の問題 -1、13
  - 1-2. 理念と運用の見直し -2、3
  - 1-3. 書誌に関する問題 -6～9、11
  - 1-4. システム構成・再編 -4、5
  - 1-5. その他の事業-14、15
2. 貴重図書、特別コレクション等の電子版の利用環境の改善 -12
3. 「これからの日本の学術情報基盤」にかかる中長期の課題 -16、17
4. その他 -10

**【目録システム】**

**1. NACSIS-CAT/ILL の諸課題**

**1-1. 意志決定の問題**

[事項 1] NACSIS-CAT/ILL の意思決定 -委員会への不在（課題の検討、決定プロセスの確立）

[提案者] NII、加藤

[方向性の検討/承認の場（案）] 本委員会、連携・協力推進会議（検討）

[想定される実働組織（案）] なし

[優先度（案）] 中期

<課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT/ILL の参加機関は、その規模や機関種別が多様であるが、NACSIS-CAT/ILL の諸課題を解決するための、NII と参加機関を包含する課題検討・意思決定の場がないために、迅速な対応が難しい状況である。
- ・ NII と大学図書館との協定による連携・協力の枠組みに基づき、連携・協力推進会議のもと、意思決定を行う体制を整える。  
なお、検討にあたっては、連携・協力推進会議の構成組織に入らない参加機関（公共図書館等）についても考慮する。

[事項 13] サービスレベル(SLA)の相互確認

[提案者] NII

[方向性の検討/承認の場(案)] 本委員会、連携・協力推進会議(承認)

[想定される実働組織(案)] NII

[優先度(案)] 中期

<課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT/ILL のサービスは、NII が現実に運用可能な範囲で提供されているが、参加機関との間に明確な申し合わせがない状況である。利用時間や災害時の対応など、サービスレベルについて改めて NII と検討して明確化し、NII と大学図書館との協定による連携・協力の枠組みに基づき合意を行う。これにより、コスト面も含めた全体最適化に向けての運用が可能になる。

## 1-2. 理念と運用の見直し

[事項 2] NACSIS-CAT/ILL の理念の再考

[事項 3] 共同分担目録方式の見直し

[事項 8] 1コンテンツに対していくつのメタデータが必要か?

[事項 9] メタデータはどこ(上流、中流、下流)で、誰(日本、世界)が作るのか?

[提案者] NII、加藤(事項 2~3)、荘司(事項 8~9)

[方向性の検討/承認の場(案)] 本委員会

[想定される実働組織(案)] WG 設置

[優先度(案)] 中期

<課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT/ILL の諸課題の中でも、重要事項として、理念・運用に関わる問題提起が行われている。例えば、参加機関の書誌作成能力差の拡大、目録品質の低下、書誌レコード調整の負担増は、基本理念である「共同分担目録方式」の限界の現れとも考えられる。
- ・ 共同分担目録方式の見直しを含め、システム全体での書誌作成・書誌コントロールの能力維持と業務負荷の軽減を可能とする運用体制を検討する。
- ・ 検討にあたっては、NII と大学図書館との協定による連携・協力の枠組みに基づき、持続的な運用を可能とする制度設計を行う。
- ・ 外部データの活用、参加機関の役割区分の設定や書誌作成に対するインセンティブモデルの導入などを含め、持続的運用に資するしくみを積極的に検討する。

### 1-3. 書誌に関する問題

[事項 7] メタデータ・フォーマットの検討

[事項 11] RDA への対応 ※RDA に対応した場合の影響評価など。NDL との協力が必要

[提案者] 荘司（事項 7）、佐藤・NII（事項 11）

[方向性の検討/承認の場（案）] 本委員会

[想定される実働組織（案）] WG 設置

[優先度(案)] 中期

#### <課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT においては独自の書誌フォーマットを採用しているが、一方で、各国 MARC や図書館コミュニティ以外とのデータ交換が困難であったり、国際的な目録規則の変化に立ち後れるなどの課題が顕在化しており、NACSIS-CAT 方式の見直しも含めた検討が必要である。
- ・ 目録情報の国際流通への対応としては、NACSIS-CAT の RDA への対応について具体的な検討に着手すべきである。まずは NACSIS-CAT への影響評価について調査・検討を行う。なお、RDA については我が国での対応は NDL が先行しており、NDL へ協力を要請し進めていくことが必要である。

[事項 6] 書誌品質の再定義

[提案者] NII, 加藤

[方向性の検討/承認の場（案）] 本委員会

[想定される実働組織（案）] WG 設置

[優先度(案)] 中期

#### <課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT で維持すべき書誌品質のレベルについて、従来は書誌の重複率を下げるということを最も重視してきた。また、記述の正確性を重視する一方で、典拠コントロールについては必須ではなかった。今後は、現在のウェブ上の他の情報資源との連携をし、目録データを流通させるという視点を加味しつつ、書誌品質を再定義することは検討に値する。

### 1-4. システム構成・再編

[事項 4] NACSIS-CAT/ILL のシステムの再編

[事項 5] システム構成（クラド or 現在と同じ or 両者混交）、および現行 NACSIS からの移行

[提案者] 佐藤、NII（事項 4）、荘司（事項 5）

[方向性の検討/承認の場(案)] 本委員会

[想定される実働組織(案)] WG 設置

[優先度(案)] 中期

<課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT/ILL はシステム稼働より既に 25 年を経過しているが、データ構造と作成基準の基本は一貫し、根本的な変更は行われておらず、システムそのものの最適化が遅れている。以下に記載する項目を中心とし、現システムでの技術的課題を整理し、対応を検討する。
  - ・ データ構造の見直しのシュミレーション
  - ・ CATP プロトコル見直しのシュミレーション
  - ・ 将来のシステム構成（クラウド化への対応の是非も含む）
  - ・ 上記を踏まえた、現 NACSIS の調整・移行に関する検討

#### 1-5. その他の事業

[事項 14] 目録にかかわる研修の再編

[提案者] NII、加藤

[方向性の検討/承認の場(案)] 本委員会、図書館連携作業部会（承認）？

[想定される実働組織(案)] WG 設置

[優先度(案)] 中期

<課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT/ILL に関わる研修は、e-learning 化などの取り組みも行われているが、基本的には講習会を開催するという開催方式や、操作者全員に受講を義務付けるという方針には大きな変更がないまま現在にいたっている。以下に記載する項目を中心に、見直しを検討する。
    - ・ 目録システム講習会のあり方（回数・内容・対象者）
    - ・ NACSIS-CAT 講師の養成
    - ・ CAT/ILL WS の再編
- ※ILL システムは図書館連携作業部会にて不開催が決定事項となったため記載せず
- ・ 検討にあたっては、NII と大学図書館との協定による連携・協力の枠組みに基づき、持続的な運用を可能とする制度設計に配慮する。
  - ・ 検討にあたり、NACSIS-CAT/ILL 以外の研修を含めた包括的な調整が必要であれば考慮する。

[事項 15] 遡及入力事業の再編（遡及入力事業の継続有無）

[提案者] NII

[方向性の検討/承認の場(案)] 図書館連携作業部会(検討)

[想定される実働組織(案)] NII

[優先度(案)] 中期

<課題と方向性>

- ・ 遡及入力事業の中止は図書館連携作業部会の決定事項となったため、課題からは取り下げ

## 2. 貴重図書、特別コレクション等の電子版の利用環境の改善

[事項 12] 貴重図書、特別コレクション等の電子版への対応

[提案者] 柄谷、加藤

[方向性の検討/承認の場(案)] なし

[想定される実働組織(案)] なし

[優先度(案)] 中期

<課題と方向性>

- ・ 様々な機関で貴重図書や特別コレクション等の電子化が進められているが、公開が構築機関単位であるため、機関リポジトリにおける JAIRO や CiNii Articles のように、横断的な検索ができず、貴重な資料へのアクセスが不自由な状況である。
- ・ NACSIS-CAT と連携のとれる形で、該当資料のメタデータを横断的に検索可能な仕組みを検討する。具体的には、日本古典籍総合目録データベースや全国漢籍データベース等の既存サービスとの協力を視野に入れる。(専用 DB の構築は検討しない)

## 3. 「これからの日本の学術情報基盤」にかかる中長期の課題

[事項 16] NACSIS-CAT の今後(国外 DB との互換性など)

[事項 17] 国外の日本語資料の情報基盤作りに対して、日本としてどう関わるのか?

[提案者] 関

[方向性の検討/承認の場(案)] 本委員会(検討)

[想定される実働組織(案)] なし

[優先度(案)] 長期

<課題と方向性>

- ・ 「これからの日本の学術情報基盤」を考える上で中長期的に見据えておくべきこととして、

NACSIS-CAT の今後の国外展開、および、世界における日本語資料の情報基盤整備（特に逐次刊行物のナレッジベース）のあり方について検討する。

※特に後半の内容について、第3回会議において関委員の意見も伺って調整する。

#### 4. その他

[事項 10] PDA への対応

[提案者] 荘司（事項 10）

[方向性の検討/承認の場（案）] 本委員会

[想定される実働組織（案）] WG 設置

<課題と方向性>

- ・ 主に電子書籍の選定に関わるものと捉えるならば、NACSIS-CAT/ILL はもとより、目録システムの課題になじむか？とも考えられ、取り扱いについて第3回会議において調整したい。

以上



平成 25 年 7 月 9 日

CAT/ILL 担当

## 目録検討事項

### 1 VOL 積み構造の見直し

現行の VOL 積み構造を見直し、巻次や部編名については VOL 積みを行わないこととする。

メリットとして、以下の事項が挙げられる。

- 1) MARC フォーマットデータをフラットに CAT レコードにすることができる。
- 2) レコード作成・修正時に VOL 積みの要不要で迷わずにすむ（書誌調整が減る）。
- 3) 物理単位での作成館が明らかになるため無駄な書誌調整が減る。

デメリットとして、以下の事項が挙げられる。

- 1) 画面表示が物理単位になる（現行に慣れた人には見づらくなる）。
- 2) ローカルの OPAC にも影響を与えるため、利用者への説明が必要となる。

システム改修は不要であるが、遡及的に変更しようとした場合、コンバーターが必要になるし、ローカル側レコードの一括更新が必要になる。

### 2 書誌調整

書誌調整については、その負担を低減するためにこれまでも様々な方策が実施されてきたが、一昨年度のアンケート結果からもうかがえるように、現在でも参加館にとって大きな負担となっている。抜本的な解決策ではないが、少しでも低減するために、更に発見館の権限を広げ、調整機関としての NII の権限を強める方向で CM を改訂する。

なお、このことについてシステム改修は不要である。

### 3 AL フィールド義務化

現行は AL フィールドの入力や典拠ファイルへのリンクが義務化されておらず、質の面で必ずしも十分ではない書誌が数多く存在する。AL フィールドの義務化については、当初は参加機関の負担に配慮して義務化を早い段階でやめたが、今日では図書館員の責務として義務化を提案したい。

重複も含め大量の典拠レコードが作成されることを覚悟しなければならない。

システム改修が必要である。また、参照典拠レコードの整備も考えなければならない。

#### 4 RDA 対応

既に多くの国立図書館が RDA 対応もしくは対応予定を表明している。CAT もこのような目録規則の変化に追随して（最低限、洋書に関してだけでも）目録情報の基準や CM の更新が必要である。

程度にもよるが、フィールド長の増加やフィールドの追加を行うならば、（場合によっては大規模な）システム改修が必要になる。

## 目録システムの検討方針（案）

## 1. 目録システムの将来像

第一のタスクとして、目録システムの将来像を描くこととする。このことについては、国立大学図書館協会学術情報委員会学術情報システム検討小委員会等で既にある程度議論されているので、それらを統合・拡張させるイメージである。

将来像＝目標が描きつつ、その将来像を実現するための要求要件を策定することとする。ここでは、『目録情報の基準』や『目録システムコーディングマニュアル』の改訂やシステムの改修、再構築も視野に入れつつ、作業を進めることとなる。

## 2. 喫緊の課題

第二のタスクとしては、喫緊の課題の解決を図ることとする。「RDA 対応」のように、上記の要求要件に必ず挙げられ、なおかつ早急に（少なくとも最低限の部分について）『目録情報の基準』や『目録システムコーディングマニュアル』の改訂やシステムの改修等を検討しなければならない課題がある。

「RDA 対応」を例に挙げたが、これについては、全面的な対応を行おうとすると、システムの再構築は否めないが、漸進的に対応するという前提ならば、当初は『目録情報の基準』や『目録システムコーディングマニュアル』の一部改訂に留め、少しずつシステム改修を行う一方で、システム再構築の準備を進めてはどうかと考える。

## 3. 運用上の課題

平成 23 年度に公表された参加館アンケートでも示されているように、「書誌調整」に対する不満や負担感は大きい。既に今のような仕組みは破綻に向かいつつあることは明白であるが、抜本的な改善を行うには議論が不足している。当面は作成館から発見館に一部の権限を移す等の方策を検討することとする。

## 4. フロー

